

広島県知事

湯崎英彦様

広島市長

松井一貴様

広島商工会議所会頭

深山英樹様

要望書

基町の明日を考える会

サッカースタジアム建設候補地から中央公園案を外すことを求める要望書

一 要望趣旨

基町地区は歴史を遡っても常に行政に翻弄され続けた町である。広島城改築以来、武家屋敷が立ち並んでいたが、明治時代には軍の施設となり広島城には大本営が設置された。その後も、原爆投下により焼け野原となり、戦後の復興も広島市で最も遅れた地域である。また、差別や偏見を受けながらも、地域の自治的な取組を通して、町が形づくられてきたが、急速に進む少子高齢化や多国籍化など将来の日本の縮図と言える基町には対応すべき喫緊の課題が山積している。何より、「公営住宅法」の縛りにより町の担い手となる人材が少なく法律や条例の見直しが最も重要な懸案である。さらに、公営住宅の老朽化や社会的弱者に対する配慮や生活環境改善を含めた行政の支えやなしには、将来の町づくりは立ち行かなくなるのが実態である。

一方、サッカースタジアムの建設により地域の活性化につながるという考えは、基町地区住民にとっては逆行し、本来必要な「活性化」の言葉のすり替えに過ぎない。

また、平成29年12月に出された3建設候補地の比較資料を見る限り、基町地区住民にとっては、明らかな生活環境の悪化が想定され、その対応については全く示されていない。候補地比較の中にある「アクセス性」や「観客の動線・滞留場所の確保」はあくまでサッカー観戦者の視点からしか示されておらず、それに伴う地域住民にとっての様々な懸念は増大するばかりである。他の2候補と比較しても住民の生活面を慎重に考慮する必要性がありながら、示されていない点は、客観的視点に立っているとは言い難い。

例えば、「アクセス性」で言えば、具体的な例をいくつか挙げると、基町地区住民とりわけ、高齢者の貴重な交通手段である広島バス「23番 横川～大学病院」の運行に支障をきたすことは避けられないこと。また、アストラムライン「城北駅」より来る人の流れは、消防署と17コアの間を通りピロティ部分を横切って近道する流れやショッピングセンター「マルナカ」に立ち寄って、基町の町中を通る流れなど、わたしたちにとっては、不特定多数の人々が入り込む不安や危険性がぬぐえないことなど容易に想像がつく。

以上のような、わたしたちへの配慮等を考え、一旦候補地から外した「中央公園案」突拍子無く再び候補地に入れるという筋道では、わたしたちの誇りやプライドをも傷つけるものに他ならない。

よって、次の2点について強く要望いたします。

二 要望事項

- 1 将来を見据えた基町の町づくりや豊かな住民の生活の保障をないがしろにしたサッカースタジアム建設候補地から、中央公園案を外すこと
- 2 地域住民や各団体等が参画する住民説明会の中で、この問題をオープンに検討し直すこと